

菜園生活スタートを応援します
―農地を借りる要件が緩和―

これまで農地を借りるには、借受後に自己所有地と合わせて50a以上の耕作面積が必要でしたが、3月1日から、この面積を下回っていても農地を借りることができるように改めました。

新しい要件は次の通りです。

①新規就農者（青年等就農計画の認定を受けた方） 30a以上

②市内在住で農業経験のある方（例：活き活き農業セミナー修了者） 10a以下

①・②とも借りる際には他に要件があります。

詳細はお気軽に相談してください。



豊橋市・豊川市農業委員会との
意見交換会を開催しました

1月30日

（木）、豊橋市・豊川市農業委員会との意見交換会が、田原市役所で開催されました。豊橋市から23名、豊川市から13名、本市から17名の農業委員が出席しました。



●グループ討論の様子

今回は、①農業委員と農地利用最適化推進委員の活動②農地の利用・各地域における今後の農業などについて、現状と課題、今後の対策をグループに分かれて話し合いました。どのグループも活発な議論が交わされ、多くの意見が出ました。

①については、委員相互の情報共有を強化、地元の声を聴く機会をつくる、②については、後継者を確保するために、親が魅力ある農業を行い子どもに伝える、収益の上がる農業、休日設ける経営、農地の活用に関する制度をPRして荒地の解消を図ることなど、他にも多数の意見が発表されました。

たはらで農業はじめました vol. 2

～新規就農者を紹介します～



今回は堀切町の山田壮一朗さんを紹介します。

山田さんは昨年5月に新規就農し、約6400㎡の畑で主にキャベツ、オクラを栽培しています。基本的に一人で働いていますが、忙しいときはご両親が手伝ってくれます。

静岡県湖西市出身の山田さん、実家は農家ではありませんでしたが、母方の祖父母が堀切町でメロンの栽培や販売をしていたことから、子どものころから農業に触れる機会はたくさんありました。

直接の就農の契機となったのは大学卒業後、時々祖母宅に通って手伝い、農業の楽しさを見いだしたためです。そして、祖母や親戚の方に技術を教えてもらい、自ら農業経営を始めました。

山田さんに農業の魅力を聞いてみると、自分の手で最初から最後まで仕事をやり通せることだとのこと。今後は経営面積を1haまで増やし、事業の安定を図りたいと意欲的に話してくれました。

また、各市の現状や抱えている問題などの情報を共有することもできました。5年後、10年後の地域の農業を守っていくための真剣な話し合いが行なわれ、農業を支援する委員にとって実りある会となりました。



●意見交換の発表の様子

「情報という肥料」をあなたに

全国農業新聞から「情報という肥料」を吸収して、もうかる農業と豊かな農村の実現を目指しましょう。

全国農業新聞は、毎週金曜日に発刊される農業専門紙で、農業者に必要で役立つ情報をお届けします。

◆購読料

月額700円

◆申込

農業委員会事務局へ電話にて